

第2回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 令和元年12月18日（水）午後7時00分～9時00分

【出席者】 岡本英二委員、宮地孝夫委員、田頭誠志委員、酒井紀子委員、矢野健一委員、吉川万紀子委員

【行政側】 富田地域振興局長、細川町民生活課長、林生涯学習課長、東学校教育課副課長、畦地町民生活課副課長、杉本地域振興課副課長、大元まちづくり推進室室長、井口地域振興課主査

【傍聴人】 なし

【議事及び質疑応答】

※最初の議事である「アウトドア交流」に関し、杉本地域振興課副課長から以下の冒頭説明を行った。

- ・ 四万十町観光協会主催の十和地域観光推進協議会について、構成団体及び協議会の目的。
- ・ 三島キャンプ場再整備計画および四万十川アドベンチャーパークの事業計画概要。

（酒井紀子委員）

アドベンチャーパーク（ジップライン）はどこが委託を受ける？

（杉本_地域振興課副課長）

初年度は町直営だが道の駅四万十とおわの指定管理業者に業務委託で、翌年度は道の駅四万十とおわの指定管理業務を行う指定管理者に指定管理委託する。

（矢野健一委員）

委託料は？

（富田_地域振興局長）

業務委託の初年度は、利益を町が受けることになるので基本的に必要な経費すべてを委託料で支払う。2年目からは指定管理業務となり、そこからは業者の裁量によって経営していただくことになるので現段階では委託料の支払いは予定していない。

（矢野健一委員）

対岸の山まで四万十川を渡す渡船の人材は？

（杉本_地域振興課副課長）

各関係機関とは、大丈夫だと打合せ段階で確認している。

（矢野健一委員）

個人的には不安視している。保険の事などきちんとチェックしてほしい。

（田頭誠志会長）

管理運営の受け皿となる団体がしっかりしているかどうかはポイントだと思う。保険や安全管理等、かなり問われる。

（矢野健一委員）

団体客の対応のノウハウはあるか？地元のノリは通用しない。役場は最初それを作れるのか。

(富田_地域振興局長)

全国でフォレストアドベンチャーを展開する(有)パシフィックネットワーク監修のもと取り組んでいくし、保険についても徳島の先進事例を参考にし、地元の保険業者と協議をしている。

(杉本_地域振興課副課長)

ジップラインに関しては、ワイヤーが切れたような事故は過去に例が無い。そのワイヤーで軽く手を切ったとか軽易な事故ならあるようだ。

(大元_まちづくり推進室室長)

天候悪化や河川の増水等への対応等、お知らせは？舟は使わず車で対岸まで行くという人も想定される。そういった周知は？今どきのやり方で SNS も活用は考えている？

(杉本_地域振興課副課長)

当日の現場の気象状況を勘案したうえで、運行不可能と判断した場合は当日に臨時休業のお知らせになるのでは。

(富田_地域振興局長)

パソコンを整備することにしているので、SNS 等を使った周知方法は可能になる。

(酒井紀子委員)

自分たちはこういった会議の委員なので動きが分かるが、そうでない普通の町民にはアドベンチャーパークとかジップラインのこと等、ほとんどの方は知らないと思う。今から盛り上げていくには、お知らせをしっかりとっていく必要があると思う。

(田頭誠志会長)

ジップラインだけでなく、広くアドベンチャーパーク構想なので、今から町民憩いの場になっていくかもしれない。情報発信部署と連携して、進めてほしい。アウトドア交流の議題について、何かほかに意見のある人はいないか。

※意見なし

では、次の議題に移る。市街地再生基本構想における教育・保育推進ゾーンについて何か質問等は？

(吉川万紀子委員)

小鳩保育所の移転もあるが、昭和小学校の適正配置について。このまま児童数が減っていくと、昭和小学校のみならず保育所にも密接に関係した問題だと思う。そうすると、昭和保育所が移転する可能性はあるのだろうか？

(林_生涯学習課長)

児童数が 10 人を切ることがはっきりすると話し合いを始めて、統合へというのがこれまでの流れ。昭和小学校も最近児童数が少なくなっていることは聞いているが、ただちに 10 人を切ることはないと思っている。

(吉川万紀子委員)

地元小学校も保育所も無いとなると、そこで子育てをしようと思う人がいなくなってしまう。地域が廃れていくことが心配だ。例えば今回議題になっている教育・保育推進ゾーンを、十川エリアにしてしまうと、昭和は？となる。自分は昭和に近い方に住んでいるので、意識はそこへ行く。昭和保育所だけがポツンと取り残されたようになるのは寂しい。

(東_学校教育課副課長)

万が一、昭和小学校と十川小学校の統合となった場合は、児童の心のケアなどはしていきたい。

(酒井紀子委員)

地元が声をあげないと反映されないということについて。地元だからこそ言いにくいこともある。声を上げることで煙たがられるのではないかと保護者も思ってしまう。そういうとき、学校でも

保護者でもない第三者的な立場から両校の PTA 同士を繋げてくれる人がいると助かる。地域コーディネーターとか。

(林_生涯学習課長)

コミュニティスクールという考え方がある。学校の運営に地域もかかわるやり方。今後もそれやっていこうというのが今の流れ。その中で声をあげることが担保されていたらどうか。

(酒井紀子委員)

学校運営に口出しできるほどの知識が保護者にも無い。外の知識に触れる機会もほぼない。地縁や血縁で判断されることもある。田舎だから。でも、そこは線を引いて見てくれる外の人が必要だと私は思う。保護者には、他校を含む PTA 同士を取り持つ力はない。先生たちも戸惑うだろう。知識のある外部の人がいる。

(田頭誠志会長)

教育内容を知らないから意見が言いにくいというのは気にしないで良いと思う。以前の教育委員会はレイマンコントロール（行政など部分的に一般市民へ委ねること。すべて政治家や行政官に委ねてしまうのではなく、住民にも意思決定および指揮を担わせること。）ただし危険なのは、一部の人が走りすぎてしまうこと。

コミュニティスクール（学校運営協議会制度）はかなり負担が増える。毎年1、2月に作られる教育計画に対して保護者や地域が意見を言うことができ、4月に固まったものを公表する。これが本来のコミュニティスクール。けれど、そういう権限が広がる代わりに義務も増える。（地域の人に）

(酒井紀子委員)

ちょっとうしろからサポートしてもらって、少しずつレベルアップを図れたらと思う。

(田頭誠志会長)

個人的な意見を言わせてもらおう。PTA、充実している？私は縮小してきていると感じている。コミュニティスクール制度を入れても、現状を考えると厳しいのでは。外部の人は、PTA 同士をつなぐことにはならないと思う。

(酒井紀子委員)

人材確保については、教育委員会の中にそういう人を作ってはどうか。

(矢野健一委員)

学校統合などについても、PTA 役員の役員会で話し合われた内容は他の保護者（地域）にあまり理解されていない。噂で聞くぐらいのことはある。だが、保護者も知ることに努めるべきだと思う。

(東_学校教育課副課長)

保護者向けに、学校を通じて各種のご案内は出している。一応、行政として周知はしている。だが現状は、ほとんど集まらない。

(吉川万紀子委員)

夜間の会議はだいたい19時ぐらいから設定されることが多いが、小さい子がいる家庭は参加が難しいのでは。

(東_学校教育課副課長)

託児が出来るように準備しても、なかなか集まらない。

(田頭誠志会長)

十川だけでなく、昭和のことも色々な話がでてきた。小中連携は？

(東_学校教育課副課長)

3つの学校が連携して、協議会をつくって各校の問題点を話し合っている。令和3年4月、5月を目途に統合で進めているが、現時点で教育委員会として踏み込みづらい。

(田頭誠志会長)

全体に盛り上がりに欠けている。

(吉川万紀子委員)

実際分かりづらい。例えば、3年生の加力の時間は長期休暇中の午前10時から始まる。ほぼ全員参加の強制だが、お昼ぐらいまで授業をやって、そのあとは午後4時までスクールバスが無い。そういう問題にぶつからないと見えてこない。ケースバイケースの対応を考えていただけるなら統合は致し方ない。

(宮地孝夫委員)

広井小と十川小が統合した時、自分たちも結構勉強した。同じようなケースのところへ視察に行ったり。PTAの自分たちが一番に勉強をしないといけないと思う。事例が分からないなら、他事例も調べてみて、そうやって頑張らないとそりゃあ分からないだろうと思う。

(富田地域振興局長)

統合に話が進みだしたとき、スクールバスのこととか色々議論した。毎月、子どもたち同士を慣れられる時間もあった。

(酒井紀子委員)

昭和の雰囲気は？

(吉川万紀子委員)

保育所はやや諦めモード。どうせ（統合）決まっているんでしょう、という雰囲気。保護者同士のわだかまりは無い。地域の人はこの話を進めることに関係は？

(宮地孝夫委員)

自分たちがやっていた頃、地域にはごく一部だが色々言われた。難しいのは、後につづく年代の人のことも気にしないといけないこと。頑張る人がいたら、学校を残さないというわけではないだろう。

(東_学校教育課副課長)

子どもの交流事業は3年かけて進めていく。スクールバスの事、部活の事、色々ある。検証を進めるとともに、それは統合後も続ける。

(大元_まちづくり推進室室長)

小学校のこととはいえ、保育所も巻き込まないといけない。それは大切なことと思う。教育委員会は計画に沿って粛々と進めるというスタンスだが、町長の考えは地域は残していきたいと思っている。統合前提ではない話し合いを希望している。

(吉川万紀子委員)

昭和中学校は休校になったが、今の年間維持費は？

(東_学校教育課副課長)

そんなにかかっていない。グラウンドの草刈りなどは地元がしてくれている。エアコンを設置したのは平成23、24年ごろだが、補助金の関係で10年間はつけない。交付金の関係で他所への転用は今はできない。

(吉川万紀子委員)

昭和小もエアコン2台設置した。小学校がなくなっても転用できるなら、宿泊施設とか早い段階で回してあげたら良いのでは。

(田頭誠志会長)

学校がなくなると確かに地域がさびしくなる。使える備品類は、素早い再利用を望みたい。

(矢野健一委員)

思い出したことがあるのでどうしても発言したい。十川小学校の裏の、道路と駐車場について。車が通るのにかなり狭い箇所がある。県所有の教員住宅の前だが、道を広げてほしい。工事の関係でいま、スクールバスが道路に停まっている。日没後、子どもを十川中の前まで迎えに来ている保護者の車で混雑しているし死角から子どもが飛び出してくるようで非常に危険。早めに小学校裏を開放してほしい。

(田頭誠志会長)

そういった危険なことは、早いうちに改善するべき。

(東_学校教育課副課長)

了解した。早急にスクールバスの運転手に連絡する。

— 休憩 10 分間 —

(田頭誠志会長)

再開する。町全体の出生数は年間 70 人くらい。そのうち十和は？学校の配置適正化はデータを見ながら考えることも大事。何よりも、子どもの学びのため、というのが大切なので。そういったデータの推計値は教育委員会にもらえる？

(東_学校教育課副課長)

はい。

(田頭誠志会長)

小鳩保育所のことについて、移転後の利活用案は無い？

(矢野健一委員)

位置が悪い。進入路も狭く、使いにくいのでは。

(酒井紀子委員)

4 年後、窪川に文化的施設ができる。十和にだけ図書館がない。十和の人に聞いたら、みんな新しい建物が欲しいと言う。だけど、人も減っていつてる。お金も維持管理費もかかる。今あるもので何とかならないか。でも小鳩保育所は四万十川が増水したときに水がくると聞くし…

(細川_町民生活課課長)

個人的な想いだ、小鳩保育所は場所の雰囲気はかなり良い。ただ、いかんせん進入路が狭い。跡地利用について、こちらも委員皆さんからのご意見を伺いたい。

(林_生涯学習課長)

壊すとしても、あの場所は（遺跡の関係で）発掘調査が要る。使えるようにするには時間がかかる。耐震は大丈夫。建築基準法上もクリアしている。ただ水は心配。再利用には勇気がいる。ハードを使う事は維持管理にずっとお金がかかる。図書館職員を 2～3 人は必要。十和地域振興局の 1 階という案もあるが、ここはちょっとねという意見もある。（小さいので）小さな拠点を何個か作ることも案の一つ。文教ゾーンとして、拠点をまとめることも考えられる。そして、図書館の見せ方もただ本の数を並べるのではなく、選書とか良書コーナーを作って、量より質で魅力的な運営をすることも考えられる。

(田頭誠志会長)

いまそこに学校があるから、そこを教育ゾーンにするというのではなく、生涯学習というもの「学

び」の一つ。町として聞きたいことは？今ノープラン？そうならば委員皆に意見をもらえばよい。

(富田_地域振興局長)

現段階はノープラン。皆さんのご意見をいただきたい。

(宮地孝夫委員)

人も減る中、建物を新たに建てても後の人が困る。小鳩保育所の再利用は、自分はあきらめている。

(吉川万紀子委員)

居酒屋だったらどうせ駐車場は不要。あくまでも個人的意見。

(酒井紀子委員)

子どもを連れて行ける居酒屋が無い。保育所や学校の行事で、PTAの打ち上げに参加するのはほとんどの家庭でお父さん。お母さんも他の保護者同士で親睦を深めたい人は居るのでは。

(吉川万紀子委員)

雨天時、室内で遊べる場所を探しているお母さんは居る。

(酒井紀子委員)

隣の自治体の話になるが、西土佐では子育て支援センターが無い。困っているお母さんたちが要る。ママ友達が作れず、孤独に子育てをする人もいる。

(田頭誠志会長)

居酒屋という新たな意見も出た。図書館については、蔵書量より質を上げること。林課長が言われたように、大正と連携して選書や良書推薦の取組は面白いのでは。時代に合わせて、インターネットも使いながら。

(富田_地域振興局長)

軽四が入れば良いぐらいの（進入路が）本の運搬量ということか。

(田頭誠志会長)

結局は、進入路と水の問題。小鳩保育所はこのふたつ。

(酒井紀子委員)

海外の人は不便さを楽しんだりする。工夫次第で面白い場所になるのにな、と思う。

(林_生涯学習課長)

小学校の図書館は一つでも良いかも。そこへ地域の人も利用できるよう、大人向けの良書も入れて。つまり地域の図書館にするという案。図書館司書を人員配置するとか。

(田頭誠志会長)

学校の図書館を2階ではなく1階に作ることも可能。実際、利用はしていないが大正中学校はそうしている。

(林_生涯学習課長)

学校に外の人を入れるという難しさはあるが…

(矢野健一委員)

開かれすぎても怖い。誰あの人、みたいなことが起こるということ。

(田頭誠志会長)

時間も押し迫ってきたが、他に意見は？

(矢野健一委員)

十川小横の、教員住宅はだいぶ古いのでは？

(東_学校教育課副課長)

たしかに古い。でも入居者がいるので…

(矢野健一委員)

これも含めて、家が無い。他地域から来た人は家を探しにくい。住宅政策で、中間管理住宅が町にもあるが、優遇されていると地元は思いかねない。慎重に考えてほしい。

(田頭誠志会長)

住む場所と家庭、児童数は密接に絡み合っている。

まだまだ話し合う内容は尽きないが、今日は時間になったのでこれで会を締める。

今日は、議題のうち（１）アウトドア交流について、および（２）市街地再生基本構想における教育・保育推進ゾーンについて（十川エリア）のふたつまで進んだ。（３）として用意していた議題まで進まなかったのが、これは次回に回す。

（３）の議題は、市街地再生基本構想における医療・福祉充実ゾーンについて（昭和エリア）だった。この議題と、もうひとつ。同基本構想の B、十川エリアの駅前開発ゾーンについても話し合う。それでは今日はこれで終了とする。次回もよろしくお願いいたします。

— 終 了 —